

立命館 災害復興支援室 瓦版

かわらばん

【第24号】2014年7月31日発行

【告知】 夏期休暇中に支援活動をする 学生の旅費を支援します

立命館ではこの夏、被災地域のボランティアへのニーズの多様化や細分化を受け、本学学生を対象にボランティアバスの派遣を行なうとともに、その他の活動に参加する学生の旅費の一部支援を実施します。



【応募資格・条件】

- ・立命館大学の学生（学部生・院生）
- ・学生個人、およびサークル・課外活動等グループなどの小集団で活動を行なう場合も可
- ・出発前手続きを行い、活動後に、ボランティア活動証明等の必要書類の提出が必要です。2014年度夏期休暇中、1学生あたり1回の応募とします。

【支援する経費について】

- ・交通費（行き先別に上限あり）
- ・宿泊費（2泊以上6泊・上限あり）

【支援対象となる活動】

- （1）立命館の協定締結先である福島県内、大船渡市の現地より募集されるボランティア活動への参加
- （2）立命館が参加者を募集する復興支援ボランティアや支援プロジェクト
- （3）過去に立命館が活動した地域へ再訪問し活動を行う場合

【申込みの手順】

- （1）ボランティア募集を確認の上、各自エントリーし、参加の許可を得る。
- （2）各自、現地までの移動の手配を行なう。
- （3）大学に旅費支援の申請を行なう。
- （4）現地で活動証明を受け取る。交通費・宿泊費の領収書を保管する。
- （5）大学に活動報告書の提出、領収書を添付し申請。
- （6）書類の受付、内容に不備がないか確認後、精算の手続きを行います。

■旅費支援制度に関する詳細

支援を受けるための申請の注意点、支援額等について：災害復興支援室ウェブに掲載しています。

■支援を受けることができるボランティア募集情報について

災害復興支援室HP、もしくはサービスラーニングセンターのHPを確認するか、窓口で相談してください。

★★★活動先を探すポイント！！

福島県、および大船渡市での活動を希望する学生の皆さんへ：

立命館が復興に関する協定を結ぶ福島県、大船渡市での活動については、大学HP等に掲載がない場合でも、旅費支援の対象になる場合があります。参加したい活動がある場合は、災害復興支援室まで一度ご相談ください。

□■□この件についての問合せ先

【旅費支援/福島・大船渡の活動】
災害復興支援室 TEL075-813-8282
不在の場合職員直通 080-1412-9489
【その他の活動について】
災害復興支援室もしくはサービスラーニングセンターまで
(衣笠学館1F/BKCアドセナリオ1F)

2014年夏期も、様々な学生が被災地域で活動します

夏期休暇中、東北の被災地域で以下の立命館大学生による取り組みや、ボランティアへの参加が予定されています。

●大船渡夏祭りサポートプロジェクト

主催：サービスラーニングセンター
期間：8/2（土）～8/9（土）
▼岩手県大船渡市にて20名の立命館大学生がお祭りの運営サポート等を実施します。昨年は盆おどりや運営のサポートで、お祭りの盛り上げに貢献しました。



●宮古MAPでつながろう！「宮古の人たち×関西の大学生」プロジェクト

主催：宮古市ボランティア団体R
期間：8/19（火）～9/9（火）
▼15名の学生が岩手県宮古市の方々に宮古市の魅力取材しMAPを作成、発信に取り組みます。



●福島ボランティア便そよ風届け隊

主催：学生団体 そよ風届け隊
時期：8/20（水）～8/26（火）
場所：福島県いわき市
▼福島県いわき市で、立命館大学を含む関西の大学生が仮設住宅を中心に「足湯カフェ」を開催します。



●2014年度夏期集中ボランティア

主催：大学間連携災害ボランティアネットワーク（東北学院大学）
時期：プログラムごとに設定
▼宮城県仙台市の東北学院大学を拠点に、気仙沼市、山元町、石巻市、雄勝町、陸前高田などの被災地域と被災企業での職業体験のプログラムが展開されます。



活動レポート 【2014年6月～7月】

●●ふくしまとはじめようin BKC

6/1(日)立命館大学びわこ・くさつキャンパスで開催されたBKCキャンパス開設20周年記念イベント「サンクスデー」において、復興支援の協定を締結した福島県庁と連携し、セントラルアークとその周辺でトークイベントをはじめとしたステージ企画、物産販売などのテント企画を実施しました。



▲セントラルアークでは、ラジオオアシションのDJの進行のもと福島県と伊達市の職員の方々が観光やグルメの魅力を発信した他、福島支援に取り組む学生がステージでの活動紹介とポスター展示▼を実施しました。



▼屋外のテント企画では福島県の郷土グルメなどの名産品販売の他、福島県で実施されているお米の「全量全袋検査」のデモとお米計量クイズや起き上がりコボシの絵付けの体験コーナーなど、来場された方々に福島の魅力と復興をアピール。企画の主旨に賛同した立命館大学生ボランティア22名も当日の運営をサポートしました。



●●後方支援スタッフ派遣第24便 気仙沼ツリーハウスプロジェクト



6/19（木）-6/24（火）災害復興支援室主催のボランティアバス企画「後方支援スタッフ派遣プロジェクト」の通算24便目の派遣として、宮城県気仙沼市の唐桑半島・鮎立（しびたち）地区で、震災後のまちの活性化に取り組む地元関係者や、糸井重里氏が率いる「気仙沼のほぼ日」と、東北ツリーハウス観光協会と連携し、14名の学生がツリーハウスの建設に向けた活動に取り組みしました。

▲一行はまず、気仙沼の復興のキーマンや市役所を訪問し、気仙沼の人々が復興に寄せる思いに触れた他、気仙沼においてツリーハウスプロジェクトが進む市内の徳仙丈山に向かい、ツリーハウスの試作0号と1号の見学を行いました。



▲ツリーハウス建設予定地である唐桑半島・鮎立に到着後、ツリーハウスのプランづくりと、建設予定地の整備（草刈り）を実施しました。

【参加した学生の声】

被災した地域は建物が多く土台のみが残る家の跡も多く「何もない」という風景が震災の記憶を物語っていました。地元の方からお聞きしたお話で印象に残っているのは、様々な震災当時大変な経験のお話に加え「震災があったからこそして皆さんに会うことができた。」という前向きで温かい言葉です。ボランティアとして自分が地元の方の役に立っているか疑問がありましたが、励まされた気持ちになりました。（文学部2回生）

□■□今後の予定

次回の派遣ではツリーハウスや関連設備の建設が開始される予定です。
日程：8/18（月）-23（土）
募集人数：10名程度
詳細：まもなく災害復興支援室ホームページで公開予定です。

●●岩手県宮古市にて 仮設集会所ODENSE-IIの 「感謝祭」が開催されました

震災以降、岩手県宮古市で立命館大学理工学部建築都市デザイン学科の学生たちが2012年の9月に建築し、地元の方々の交流拠点として活用されてきた鉾が崎地区の仮設集会所ODENSE（おでんせ）2号の区画整理事業にともなう撤去が決まり7/12（土）感謝祭が開催されました。



この感謝祭に、理工学部の宗本晋作研究室と立命館災害復興支援室、加えてODENSE2を活動拠点に取り組みを重ねてきた学生代表が参加させていただきました。

▼宗本先生からは、宮古市重茂地区のODENSE（1号）とともに、地元の方々に活用いただいたことへの感謝と、宮古での取り組みを契機に、ラオスでの集会所建設プロジェクトを進めていることについて紹介を行いました。

立命館災害復興支援室からも、これまでの地元の方々への感謝をお伝えするとともに、このODENSE建設の経験を活かして、現在気仙沼地域で進めているツリーハウスプロジェクトのご紹介を行いました。



今後の主な取り組み予定

- 8/2（土）～大学間連携災害ボランティアネットワーク主催 夏期集中ボランティア・各企画
- 8/2-9 学生派遣（サービスラーニングセンター）大船渡お祭りサポートプロジェクト
- 8/18-8/23 学生派遣（災害復興支援室）後方支援スタッフ派遣25便／ツリーハウス建設プロジェクト
- 9/12（金）学園による企画
インドネシア・ユドヨノ大統領名誉学位贈呈 震災関連企画
・・・詳細は災害復興支援室HPに順次掲載予定です。

編集後記

記事の中でもご紹介していますとおり、今年の夏期休暇中に東北の被災地でボランティア活動を希望する学生のみなさんを対象とした「旅費支援」の制度を新設しました。先着順での受付です。初めて活動する方、過去に活動した人も、関心のある方はぜひ詳細情報をチェックしてみてください！（北）

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要性があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しました。＜公式web <http://www.ritsumeai.ac.jp/rs/20110311/>>